

森林整備技術現地検討会を開催

8月10日、愛媛森林管理署は今年から「山の日」が制定されたことを記念して、森林整備技術現地検討会を開催しました。

【詳細は2頁】



開会式において挨拶する愛媛森林管理署 次長

森林整備技術現地検討会を開催

〈愛媛森林管理署〉

愛媛森林管理署では今年 工法の検証地の見学と意見
から「山の日」が制定され 交換を行いました。

たことを記念して、八月十
日に森林整備技術現地検討
会を開催しました。愛媛県
と高知県の林業事業体及び
地方公共団体等、総勢約二
〇〇名が参加したこの検討
会では愛媛県宇和島市津島
町の陰平山国有林二〇〇二
林班外で行われ、愛媛森林
管理署の南予計画区におけ
る森林作業道を用いた森林
整備箇所や森林作業道の新



森林整備を実施した箇所

林野庁では、高性能林業

機械と路網を組み合わせて
効率的かつ低コストに森林
整備を行う方法を推進して
います。このため、四国森

林管理局では継続的な利用
を目的とした作業道を平成
十二年度から開設してお
り、平成二十七年まで約
二四〇〇km、愛媛森林管理
署ではその約四割にあたる
約一〇〇〇kmの森林作業道
を開設し森林整備を行って
きました。特に南予計画区
では愛媛森林管理署の開
設量の約六割にあたる約
六三〇kmもの森林作業道を
開設し積極的に森林整備を
行ってきました。このよ

矢板水切工設置箇所



による路面・法面の保護効
果を検証することで、継続
的に森林作業道を利用す
るための技術開発を行って
います。

今回、愛媛森林管理署の
南予計画区において、①森
林作業道を用いて団地的に
森林整備を実施した箇所、
②矢板水切工設置箇所、③
うな中、南予計画区では、
地形が急傾斜で豪雨の多い
四国地方での路面流水や雨
滴衝撃等が森林作業道の維
持コストを増加させている
ことを踏まえ、今年度から
矢板を横断溝のように用い
る「矢板水切工」による効
率的な排水や、樹皮の敷設
地検討会を、国有林職員と
民有林関係者である林業事
業体や地方公共団体等の双
方の技術力向上を目的とし
て開催しました。

最初の①森林作業道を用
いて団地的に森林整備を実
施した箇所では、平成十八

年度から現在に至るまで、また、軽トラ等の車高が低

樹皮敷設箇所

います。参加者から、当署がこれまで実施してき

約四百七十二haの国有林を
約百十二kmの森林作業道を
用いて森林整備を実施し現
地ではこれまでに森林整備
を実施した箇所や、森林作
業道の表土ブロック積工等
を見学し、参加者からは、
「森林作業道がとても丈夫
に作られており参考となる
作設方法が見受けられた」
という意見等がありまし
た。



「樹皮の有効活用につ
いては、国だけで
なく民間の原木市場
でも課題となってい
るため、この樹皮敷
設を民間にも波及さ
せ、連携して検討を
進めてほしい」とい
う要望等がありまし
た。

次の②矢板水切工設置箇
所では、勾配が最急勾配で
ある一四％に近い森林作業
道において、矢板を横断溝
のように設置し、その排水
効率等を検証しています。

容易であると見込まれ従来
の水切りよりも走行しやす
い」といった意見等があり
ました。

その他にも、森林作業道
を国有林が民有林の境まで
開設している箇所を明示す
ることで、今後、付近の民
有林の森林整備を実施する
際に活用できるよう、情報
提供を行いました。

最後の③樹皮敷設箇所
は、路面と法面に樹皮を敷
設し、樹皮敷設による路面・
法面の保護効果を検証して

います。当該箇所は今年度
から国が所有する久万土場
の樹皮を用いて行う樹皮敷
設試験のモデル地であり、
そこで有用性が実証できれ
ば、国有林が所有する土場
の樹皮処理費用を軽減する
方法の一つとなると考えて

今回の現地検討会では、
ます。

最後、参加者からは、
「樹皮の有効活用につ
いては、国だけで
なく民間の原木市場
でも課題となってい
るため、この樹皮敷
設を民間にも波及さ
せ、連携して検討を
進めてほしい」とい
う要望等がありまし
た。

また、軽トラ等の車高が低
い車はバンパーや車の底を
擦る恐れがあるため、安
全走行装置を設置した上
で、その走行性を検証して
います。現地で排水状況を
見学し、また実際の走行性
を体感したところ、参加者
からは、「従来の木製横断
工にくらべ材料価格がほぼ
同じ、排水量が多く掃除も

そのような場を積極的に設け、
国有林から民有林への積極
的な情報発信と、民有林と
の情報交換等を通じた技術
力の向上を積極的に行い、
林業全体の活性化に向けて
取り組みたいと考えており
ます。

今回の現地検討会では、
ます。

今回の現地検討会では、
ます。

今回の現地検討会では、
ます。



勉強会に参加した国有林モニターの皆様

平成二八年七月二六日、高知県香美市物部地区で、平成二八年度第一回国有林モニター一四名が参加された。当日は、好天にも恵まれた。四国4県から国有林モニター一四名が参加された。



「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

あります。」との挨拶がありました。まず、高知中部署管内のヒカリ石にある「治山の森」に向かい、そこで治山工事施行前後の比較写真等による治山事業の説明と、現地での見学を行いました。

午後からは、国が治山直轄事業として行ったヒカリ石復旧工事現場において、

開会にあたり大山局長から、「実際に治山事業現場やシカ駆除対策等、国有林や森林についての理解が深まる勉強会になれば幸いです。また、ニホンジカの駆除対策については、天候が荒れ、視界が悪くなってきたことから、資料による説明

となりましたが、モニターの方々は、各視察箇所や移動中の説明も大変熱心に聞き入っておられ、視察以外のことにしても、緑のオーナー制度に対する質問がありました。



樹木教室

『学校の樹木へ名札を付けよう』

〈技術普及課〉

七月二四日、横浜新町まちづくり市民会議より依頼され、高知市立横浜新町小学校において、樹木学習を開催しました。このイベントの趣旨は、学校にある樹木の名前を知ってもらい、自分たちの暮らしと深い関わりのある

雨が降っていましたが開始当日、集合開始直前まで雨が続いていましたが開始

樹木の役割を家族や地域の
方々と楽しく学ぼう。とい
うもので、三年ぶり二回目
の開催となりました。

まず、職員が事前に準備
した樹木の葉を見せて、そ
の形状や、広葉樹・針葉樹
の特徴を説明しました。

その後、二班に分かれて

校内にある二十種の樹木の
特徴や、名前の由来などを
学習しました。

参加者は暑い中真剣に話
を聞き、葉を触ってじつ々
と観察したり、種子を探し
たりしながらメモをとって
いました。

次に、樹木名札の作成に

移り、参加者が気に入った
木と自分の名前をヒノキを
輪切りにしたプレートに書
き、きれいに縁取りをした
り、好きなイラストを描く
などして、個性豊かに仕上
げ、自らの手で樹木名札を
取り付けていきました。選
ばれた木は「僕の・私の木」
となり、より存在感が増し
木が、参加者にとって、夏
た感じがしました。

参加してくれた子ども
達からは、「木の名前をた
くさん知れてよかった。」
「葉っぱの違いが学べて、
すごく勉強になった。」と
汗を光らせながら笑顔で意
見ができました。

今回、樹木名札を付けた

木が、参加者にとって、夏

休みの思い出になると共に
木であるようお願いいつつイベ
二十年・三十年後も大切な
ントを終了しました。

七月二五日に森と湖に親
しむ旬間の取組として、石
手川ダム水源地域ビジョン
推進委員会や愛媛県、松山
河川国道事務所、松山市、
愛媛森林管理署の主催のも
と、松山市玉谷町のせせら
ぎ公園において「自然と遊
ぼDAY」が開催され、小
学生三六名、未児童二一名
の親子が参加しました。

午前中は川畑署長を含む
主催者代表の挨拶の後、東
雲女子大学名誉教授と愛媛
大学教授による昆虫観察が
行われ、公園の周辺にいる
昆虫や水中生物の数々に子
供たちは興味津々の様子で
した。

午後からは森林の話と木
工教室を行いました。森林
の話については、国有林等
の森林の役割について説明
を行いました。普段聞けな

森林教室
「自然と遊ぼDAY」の開催
〈愛媛森林管理署〉

森林教室
「自然と遊ぼDAY」の開催
〈愛媛森林管理署〉

森林教室
「自然と遊ぼDAY」の開催
〈愛媛森林管理署〉



手作りの樹木名札



手作りの樹木名札

手作りの樹木名札

手作りの樹木名札

手作りの樹木名札